

高齢女性の衣服と衣生活に関する意識調査

瀬戸房子*・大平さやか**

(2012年10月23日 受理)

Attitude Survey on Clothes and Clothing Life of Aged Women

SETO Fusako, OHIRA Sayaka

要約

日本は人口の高齢化が急速に進んでおり、2015年に26.8%という超高齢社会になると予想されている。女性の平均寿命は86.4歳（平成21年）となっているにもかかわらず、市場で、若者向けの服は数多く見かけるが、高齢者にとっての「おしゃれ心」を満足させる衣服は少ない。年をとっても、自分に似合う服でおしゃれを楽しみ、健康で自立した生活を送りたいと願う人は多いと考える。そこで、中高年女性で、自分で衣服を選んで着ている比較的健康な人を対象として、衣服・衣生活に関する質問紙による調査を実施した。高齢女性はおしゃれに関心があるのに好みの服が手に入りやすく、身長が低い人が多いことや年齢とともに体型に変化が生じ既製服が合わなくなった人も多かった。また、高齢女性は、着装観が規範意識や周囲への気づかいに影響されていることや、手持ちの服を再度着られるように何とかできないだろうかという気持ちを持っていることもわかった。

キーワード：高齢者、衣服、衣生活、おしゃれ、着装観

1. 諸言

人口の高齢化が急速に進行している日本で、2009年、65歳以上の人が全人口に占める割合は22.7%、2015年には、26.9%という超高齢社会になると予想されている。また、日本人の平均寿命は男性79.6歳、女性は86.4歳（平成21年度）となっている。¹⁾

衣服は「第二の皮膚」といわれて久しい。人は生まれてからほとんどの時間、衣服を身にまとっている。衣服を身に着ける目的は大きく二つあり、一つは生理的機能としての身体保護や快適性

* 鹿児島大学教育学部 教授

** 鹿児島大学大学院教育学研究科 修士1年

の保持であり、もう一つは心理的機能としての装うという行為による社会とのかかわりや自己意識の充足である。人は衣服を身に着けなければ外に出ることはできず、毎日、何らかの目的や意図を持って着る服を選んでいる。鷺田は、なぜか衣服の問題というのは、うわべの問題、外見の問題として軽く見られるところがある。それで、衣服について考えるといえ、見かけを気にするひと、流行に弱いひとの専売特許のように思われてきた。しかし、だれも服なしには生活できず、それなしで生きていけないものを、心のどこかで見下しながら生きるというのは不健康とし、²⁾ 岩波は、おしゃれとは、身体条件を超え、人に見られることを意識しながらも、実はそのような自分自身を大切に思う気持ちの表現そのものであると述べている。³⁾ 好きな服でおしゃれを楽しむことは、高齢女性の喜びや生きがいとなって、気分の高揚や心の健康につながる。そして、服を選び着用するということは、服を着る唯一の動物である人の文化であるともいえる。

高齢女性の体型は、個人差はあるものの、加齢により若年女性に比べ胸囲の位置が低く、腹部や胴回りが大きくなり、全体にずん胴になる。また脊柱の変形による前屈、後屈、円背、膝の屈曲など、高齢者特有の体形を呈するようになり、運動機能低下による可動領域の変化や筋力の低下もみられ、着脱動作や着用時の圧迫感に影響を及ぼす。⁴⁾ 現在、成人女性用衣服の JIS 規格は、20歳代女性の身体計測値を基に作られており、その規格で作られる既製服では高齢女性の体形に合わない場合が多い。

年をとっても、自分に似合う服でおしゃれを楽しみ、健康で自立した生活を送りたいと考える女性は多いと考える。その高齢女性の社会生活を支えるものとして衣服を考える時、街は若い人の衣服を扱う店があふれていて目移りするほどであるのに、年齢を重ねた人にとっての満足いく衣服を扱う店は少なく、高齢者のニーズを満たしていないと感じる。

本研究では、高齢女性にとっての望ましい衣服と衣生活について、高齢者予備軍としての50歳代の中年女性も含め、自分で衣服を選んで着ている比較的健康な高齢女性を対象に質問紙により衣服と衣生活についての現状とニーズを調べ、検討した。

2. 研究の方法

(1) 調査

1) 質問項目の選定方法

各質問項目の選定については、関連する先行研究を参考にして選んだ。⁵⁻⁸⁾ その予備調査として、2名の高齢者女性に対し、「衣服について困っていること」、「体形の変化によって服を入手する困難があるか」、「心がけていること等」について、面接で聞き取り調査をし、サイズ不適合、体の変形による悩み、衣服を通しての自己表現などの回答を得た。それらを基に、質問項目の内容を作成した。

2) 質問項目の内容

質問の内容は、表1に示すように、おしゃれへの関心、現状についての不満、規範意識、着装心理、購買意欲、着心地等である。

表1 衣服に関するアンケート

1 おしゃれに関心がありますか。 はい、いいえ

2 服を買うとき不満に思っていることは？（複数回答）
サイズ、デザイン、色、柄、値段、肌触りの良さ、風合い、あたたかさ、涼しさなど素材に関すること、うごきやすさ、脱ぎ着のしやすさ、その他

3 好みの服は手に入りやすいですか。 はい、いいえ

4 外出着をえらぶ時どんなことに気を付けていますか（複数回答）
場にふさわしく感じよく、暗く見えないように若々しく、季節感が表れるように、動きやすく活動しやすい、圧迫感がなく重くない、流行を意識する、年齢にふさわしい服装、無難で目立たない、地味な服が良い、その他

5 外出する予定があるが、「着る服がない」と思うことがありますか、 はい、いいえ

6 お気に入りのおしゃれな服を着て外出するとき、どんな気持ちになりますか(複数回答)
うきうき楽しい、安定して落ち着く、積極的、その他

7 衣料品店で素材・デザインともに素敵な服を見つけたがサイズが合わないとき、紳士服のセミオーダーシステムのように自分サイズに作ってもらえるなら注文しますか（種類・デザインは豊富にあると仮定）
店頭と同じ値段なら注文する、2～3割高なら注文する、5割高までなら注文する、それ以上でも注文する、わざわざ注文しない

8 外出の機会は多い方ですか。 はい、まあまあ多い、いいえ

9 身長 体重 年齢 職業有無

10 日頃から、衣服について感じていることがあれば自由に記述してください。

おしゃれに対する関心についての項目は、「おしゃれに関心があるか」、「好みの服が手に入りやすいか」、「着る服がないと思うことがあるか」とした。現状についての不満の項目は、「値段が高い」、「好きなデザイン・色・柄がない」、「体形に適するデザインがない」とした。規範意識を尋ねる項目として、外出着を選ぶときどんなことに気をつけているかという問いでは、選択肢として、「場にふさわしく感じよく見えるように」、「暗く見えないよう若々しく」、「衣服によって季節感が表れるように」、「流行を（少し・ある程度・かなり）意識する」、「年齢にふさわしい服装を心がける」等とした。着心地を尋ねる項目としては、「肌触りの良さ・風合い・暖かさ・涼しさなど素材に関すること」、「動きやすさ・脱ぎ着のしやすさに不満があるか」、また、外出時「動きやすい、活動しやすい」、「圧迫感がなく重くない」を選択肢とした。着装心理の項目は、お気に入りのおしゃれな服を着て外出するときどんな気持ちになるかという問いでは、「うきうきした楽しい気持ち」、「安定して落ち着いた気持ち」、「積極的な気持ち」を選択肢とした。購買意欲の項目は、衣料品店で素材・デザインともに素敵なお服を見つけたがサイズが合わないとき、紳士服のセミオーダーシステムのように自分サイズに作ってもらえるなら注文するか（種類・デザインは豊富にあると仮定）の問いで、「店頭と同じ値段なら注文する」、「2~3割高なら注文する」、「5割高までなら注文する」、「5割高以上でも注文する」、「わざわざ注文はしない」を選択肢

とした。その他、外出着を選ぶとき気を付けることとして、日頃から衣服について感じていることを自由記述してもらった。

3) 調査対象者と実施方法及び時期

対象者は、鹿児島市やその近郊に住んでいる、コーラス、読書サークル、パソコン教室、文学講座、放送大学学生、点字ボランティア、グランドゴルフ、公民館講座、絵画サークル、プール健康教室で外出する機会のある比較的健康で自分で服を選んで着ている人100名を対象とした。

調査は、「衣服に関するアンケート」として、質問紙による留め置き法で行った。また、7人にインタビューを行った。実施期間は、平成23年7月～平成23年9月で、回収率は92%（92名）だった。年齢構成は、図1に示す通り、高齢者は、65～69歳19名、70～74歳25名、75歳以上には80歳代7名を含めた25名で、64歳以下の中年女性は50代6名を含む23名だった。

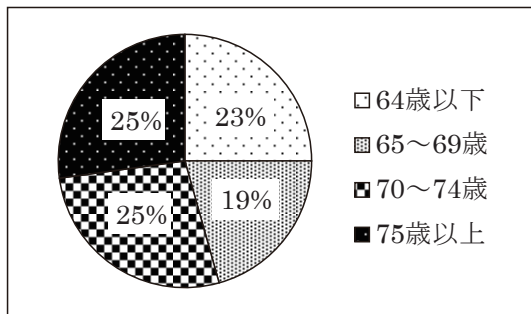


図1 年齢構成

(2) 集計と解析

アンケート調査の結果を基に単純集計、クロス集計を行い、「年齢」、「外出の頻度」、「職業の有無」、「体格、BMI」の違いによる差異を調べ、高齢期の望ましい衣服や衣生活について検討した。

3. 結果および考察

(1) おしゃれに対する関心

「おしゃれに関心があるか」という問いについては、どの年代でも関心有りが多く、図2に示すように、全体の96%が「関心がある」と答えていた。

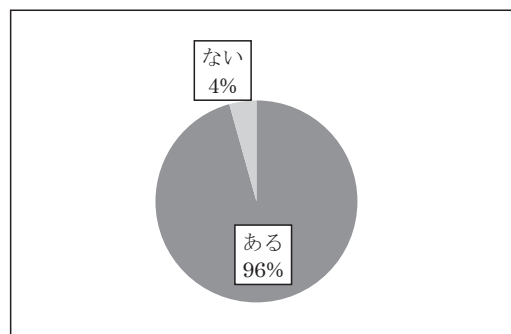


図2 おしゃれへの関心

表2 「おしゃれに関心がない」と回答した人のコメント

「肌触りがよく着やすい服がもっとあれば」
「チェック柄のスカートが好きだがなかなか見つからない」
「おしゃれをしようきうきした気持ちになる」、「体型に適したサイズが欲しい」

「おしゃれに関心がない」と答えた人の自由記述を表2に示す。関心がない人もそれぞれが自分のこだわりを持っており、着装に対して何らかの関心を持っていることがわかる。

おしゃれに関する関心として次の図3に示すように、好みの服が手に入りやすいかという問いについては、69歳以下では、「はい」と答えた人が半数以上であったのに対し、70歳以上では「いいえ」と答えた人が60%であり、好みの服が手に入りやすいかどうかは70歳を境に逆転する現象が見られた。そこで自由記述について、69歳以下の回答者のコメントを表3-1に、70歳以上のコメントを示す。

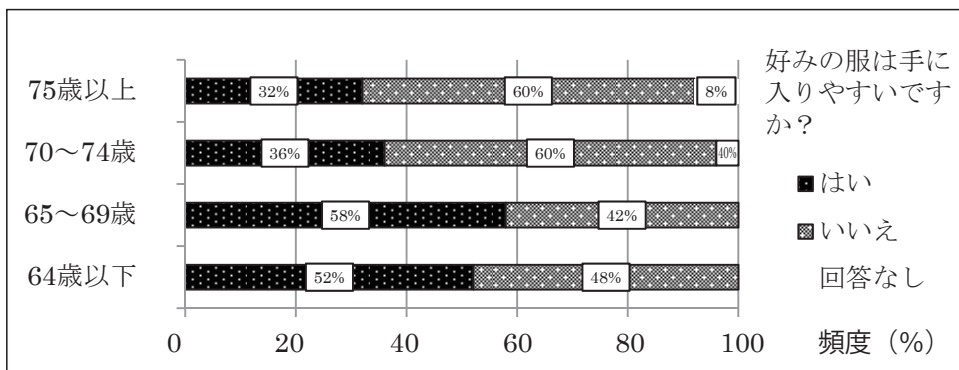


図3 好みの服の入手の難易

表3-1 69歳以下で好みの服が手に入りにくいと回答した人のコメント

「なかなか思うものがない」、「何店舗もまわってもなかなか好みのものがない」
「体型が肥満なので、いいと思う好みの服を見つけても購入できない」
「気持ちは若くても見た目は年齢の通りなので似合わない」
「自分に似合うデザインが見つからない」「探す大変さがある」
「体型が標準サイズでないため」、「予算をオーバー（高い）」
「サイズの問題」

69歳以下で好みの服が手に入りにくいと回答した人のコメントとして、表3-1に示すような記述がされている。好みの服を見つけても「サイズが合わない」、いいと思う服が「自分に似合わない」という現実を記述しており、これは、若い時の自分なら似合ったであろうが、現在の自分には合わなくなっているということの表現ではないかと推測される。「自分に似合うデザインが

見つからない」と記述してあるものもあり、加齢に伴い、若い時の自分ではなく今の自分が欲しい服を手に入れられなくなったということだと考えられる。若い時は、何枚も試着して、よりよく似合う服を手持ちの服との組み合わせやお金と相談して決めるという楽しい買い物であるが、中高年になると、妥協してそこそこのものを買うか、買うことをあきらめてしまう経験をしていることが窺える。

表 3-2 70 歳以上で好みの服が手に入りにくいと回答した人のコメント

「お店が少ない」、「上半身・下半身のサイズ違いでワンピースやスーツが着られない」
 「太っている」、「値段が高い。たまに思い切ってうん万のものを買っては失敗」
 「なかなか自分の思う好みがない。」、「色、柄、布地、サイズがなかなか一致しないこと」
 「若い人の店は多いが年配者の服はデパートくらいしかない」、「ウエストが太い」
 「買い物に行くのが困難」、「サイズがどれも大きい」、「丈が合わない」

表3-2に示すように70歳以上で好みの服が手に入りにくい人のコメントでは、「サイズ」、「若い人の店は多いが年配者の服はデパートぐらいしかない」、「デザイン・色・柄・サイズがなかなか一致しない」と記述していた。「買い物に行くのが困難」と答えた人にインタビューすると、「あちこち見て回るのが体力的に無理であるとのことだった」、「若い時によくいった行きつけの店からも足が遠のいた」と話す人もあり、これは、購入者、販売者の双方にとって不都合であると考ええる。若い時によく行っていた行きつけの店に行かなくなった理由を尋ねたところ、「店においてある服の雰囲気、値段など総合的に気に入っており、店員もなじみの人がいて、相談しやすかったが、育児・家事と忙しく数年間あまり行かない状態が続いた。少し余裕ができてからまたその店を訪れるようになったが、合うものがなくなってきて行かなくなった」ということであった。加齢による体型の変化や経験による好みの具体化などに合わせていけるような品ぞろえができないということだと考える。しかし、一店舗にこれを求めるのは無理があり、加齢に伴う体型や好みの変化に対応できる地域的なシステムの構築が望まれる。店側は客層とその体形や好みをデータ化し、より客の要求に応じた服をそろえ、また、生産者側はデータを有効に活用し、流行と消費者のニーズとのかねあいで、デザイン・素材・色柄などを決定し、世代に応じたものを作る。このような流れができれば、「手に入りにくい」、「何店舗まわっても見つけられない」と嘆く高齢者は、少なくなるのではないかと考える。

「着る服がないと思うことがあるか」という問いでは、図4に示すように、4割から6割の人が「はい」と答えていた。

表4に示すように、サイズ、T.P.O.にあった服、「ハレ」の日に着る服、自分を衣服でも表現したいがふさわしいものがない、楽しみとしての衣服について「着るものがない」と思っていることが分かった。その場や目的にあった服で自分を表現したい気持ちの表れではないかと考える。また、服はたくさんあるのに「今、着るものがない」と思い、品物はいいのに流行おくれだと感

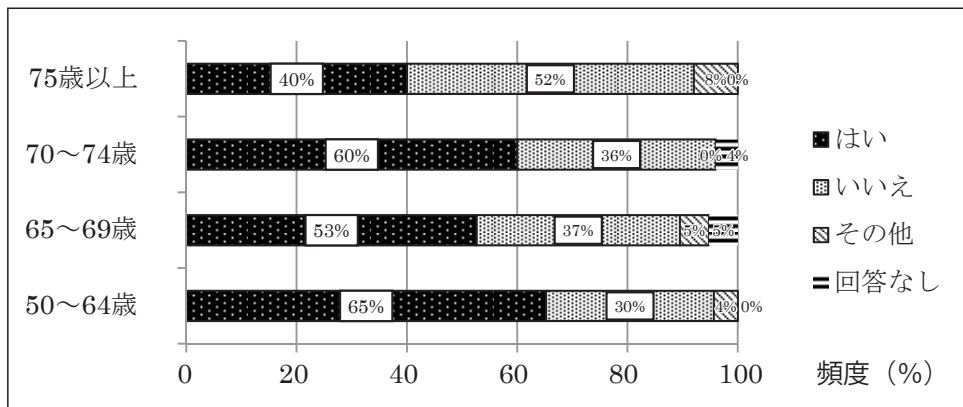


図4 着る服がないと思う人の割合

表4 「着る服がないと思うことがある」と答えた人のコメント

64歳以下	・「目的にあった服が見当たらない」、「サイズが合わなくなっている」、「きちんとしたところに行くとき困る」、「いつも迷ってしまう」、「自分らしがない」、
65～69歳	・「フォーマルなものをあまり持っていない」、「雨の日、季節の変わり目に着る服がない」、「普段着でもいろいろ替えて、その日を楽しみたい」
70～74歳	・「外出先や目的に応じた使い分けが難しい」、「TPO.に応じた服がない。流行おくれかなと感じる」、「気分を変えたいとき」、「組み合わせ」、「友人と食事」、「気取って外出というとき」、「クラス会、お祝いの席」
75歳以上	・「同窓会」、「外出着はたくさんあるのに、今頃のデザインと違うので気おくれして着ていくのが嫌になったりする。かといって新しいのを買うゆとりがない」、「旅行」、「10年前のよい服もだぶだぶになり、もったいないと思うほど沢山ある」

じたり、サイズが合わなくなったりしていて「もったいない」と思う気持ちを持っていることも分かった。自由記述の欄には、リフォームをしたいと思っても「自分でするのは不安」、「専門家に頼みたいが、望み通りにできるかわからない、金額も心配」と記述した人もあった。手持ちの服を何とかできないだろうかというのは、高齢女性に限らず多くの女性の思いではあるが、70歳以上の高齢女性にとって、流行おくれではないかと感じる手持ちの服を何らかの工夫によって再利用できるようにになれば、衣生活の満足感が高まるのではないかと考える。

(2) 衣服や衣生活の現状に対する不満

1) 価格

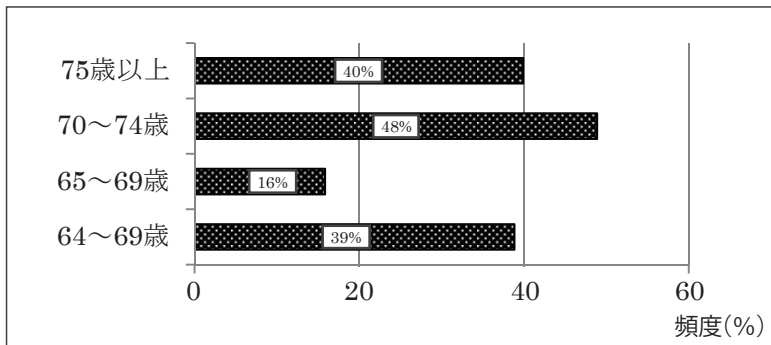


図5 価格に不満を持つ人の割合

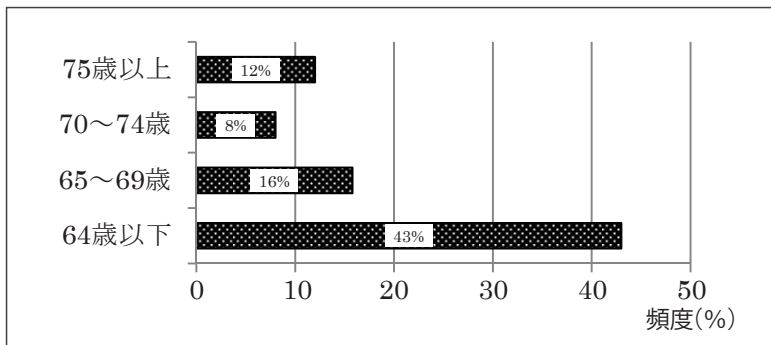


図6 職業を持っている人の割合

衣服購入時の価格については、図5に示すように、70歳以上の不満足感がやや高く、4割以上だった。図6に示すように、64歳以下の有職者は43%で約半数が仕事を持っているが、65歳以上ではその割合は減少し10%前後となり、家計は家族収入か年金収入が主になると考えられ、被服に使えるお金は限られるであろう事も理由の一つではないかと考える。平成21年総務省統計局データによると、60歳以上単身女性の1か月の被服及び履物費の平均は、6,891円となっている。⁹⁾ 個人差はあるが、70歳以上で現状に不満を持つ人が多いことがわかる。外出着としてどのくらいの値段なら良いかという問いに、5千円～1万円と答えた人が多かった。

2) 好きな色・デザイン・柄

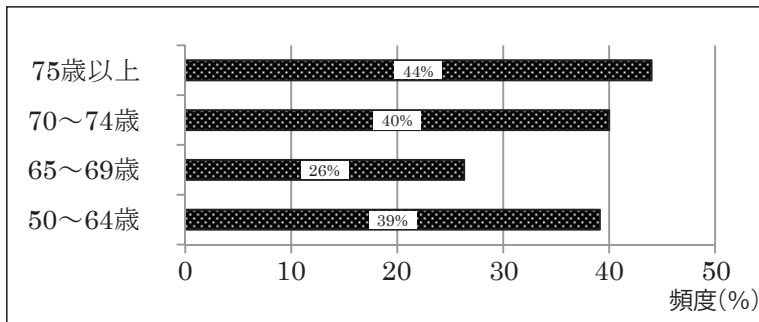


図7 デザイン・色・柄に不満を持つ人の割合

図7に示すように、65歳以上では年齢の上昇に伴って、「デザイン・色・柄」に不満を持つ人の割合は増加する。64歳以下の人の不満も39%と高いが、これは、図6に示したように、職業を持つ人が43%であり、「働く女性」の衣服が必要であり、高齢世代とは違う具体的な好みを持つ世代なのではないかと考える。

表5 色・デザイン・柄に不満な人のコメント

64歳以下	・「少ない」、「チェック柄が好きだが赤のタータンチェックのものが無い」、「色・柄は良くても丈が合わない」、「多すぎて・・・」
65～69歳	・「サイズが小さいのでサイズにこだわると・・・」
70～74歳	・「時間をかけて探すと見つかるかもしれないがなかなか自分の感性に合うものがない」、「高齢者向けのおしゃれなものがない」、「きらびやかな色が多い」
75歳以上	・「若向きのデザインが多い」、「襟ぐりの広い服が多い」、「好みの色がない」、「若い人向けが主流」

また、表5に示すように、70歳代のコメントにあるように、「きらびやかな色が多い」という回答から、高齢者の衣服を置いている店について、色・柄が地味すぎ、派手すぎと極端なものが目に付くのではないかと推察する。高齢者がきれいに見え、個人的にも似合う色の提供が必要である。また、「襟ぐりの広い服が多い」という回答が複数あることから、年齢が上ると首から前胸部にかけての露出を好まない人が多く、襟ぐりを広げすぎず、きれいに見えるようなデザインが求められる。

3) 体形に適するサイズ

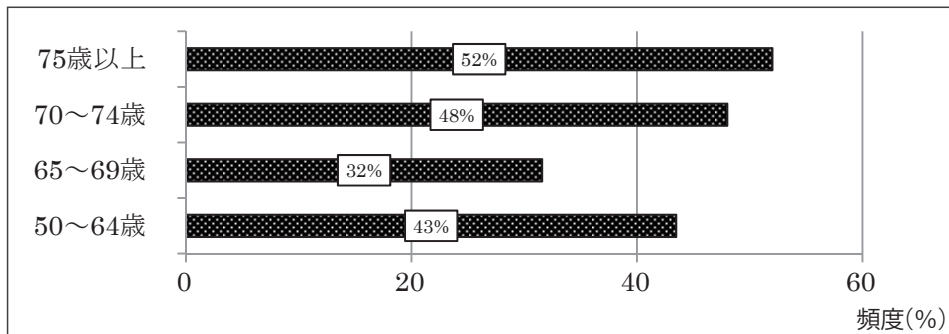


図8 サイズに不満を持つ人の割合

図8にあるように、体形に適するサイズがないことは、高齢者の年代が上がると増える傾向にあり、70歳以上では約半数が不満に思っていることがわかる。

表6のコメントを見ると、「上半身と下半身のサイズが違う」、「身長が低く丈が合わない」などが記述してあるが、JIS規格ではカバーしきれないバランスの悪さがあり、サイズと「色・柄・デザイン」との兼ね合いも難しく、問題は複合的であると考ええる。ここでも64歳以下のサイズに不満を持つ人は43%と高めであり、前項の「デザイン・色・柄に不満」を持つ人と同じく、「働く」衣服を必要とする人が多いためではないかと考える。

表6 体形に適するサイズがないとした人のコメント

64歳以下	・「身長が低く、裾、袖、ウエスト、腕回り、ヒップ回りが入らない」
65～69歳	・「おなかまわり、身ごろにゆとりがない」、「サイズにこだわると、柄・デザイン・素材など総合的に満足できるものがない」、「上半身と下半身のサイズが違う」
70～74歳	・「太っている」、「小さくて細すぎるからだ」、「体型に合わせると若向きすぎ、年齢に合わせると老ける」、「ウエストが太い」、「ヒップが入らない」、「上下のサイズ別」、「Sサイズが少ない」、「ウエストに合わせると背が低い丈が長い」
75歳以上	・「丈が合わない」、「素材を気にいってもサイズがない」、「身長と体型に合った服がない」、「上着丈が短い」、「襟ぐりが広い」

対象者の年齢別の身長の割合を表7に示すと、154cm未満のプチサイズ (P1～P3) の人が、全体の62%(P1=10%、P2=11%、P3=41%)と一番多く、レギュラーサイズ (R) 32%、トールサイズ (T)5%であった。

表 7 年齢別身長割合

年齢	サイズ	P1	P2	P3	R	T	
75 歳以上	総数(名)	5	5	9	5	1	25
	頻度 %	5	5	10	5	1	27
74 歳以下	総数(名)	1	3	11	9	0	25
	頻度 %	1	3	12	10	0	27
69 歳以下	総数(名)	1	0	11	7	0	19
	頻度 %	1	0	12	8	0	21
64 歳以下	総数(名)	2	2	7	8	4	23
	頻度 %	2	2	8	9	4	25
合計	総数(名)	9	10	38	29	5	92
	頻度 %	10	11	41	32	5	100

P1=145 cm以下、P2=145.1～150 cm未満、P3=150～154 cm未満、R=154～162 cm未満、T=162 cm以上

また、日本肥満学会が決めた BMI の判定基準で、¹⁰⁾ 調査対象者の身長と体重からそれぞれ BMI を算出し、痩せ (BMI18.5未満)=S、普通 (BMI 18.5以上25未満) = M、肥満 (BMI25以上)=L に分類し表8に示す。肥満度別に、「サイズに不満」を持つ人の割合をみると表8の通り、L88%、M29%、S60%と、肥ったグループ・痩せたグループが不満を多く持っていることがわかる。

表 8 肥満度別のサイズに不満がある人

肥満度		不満なし	不満あり	合計
L	人数(名)	2	1	3
	頻度 %	67	33	100
	人数(名)	2	15	17
	頻度 %	12	88	100
	人数(名)	44	18	62
	頻度 %	71	29	100
M	人数(名)	4	6	10
	頻度 %	40	60	100
S	人数(名)	4	6	10
	頻度 %	40	60	100
合計	人数(名)	52	40	92
	頻度 %	57	43	100

L：肥満、M：普通、S：痩せ

表9 年齢別のサイズに不満がある人の肥満度の割合

年 齡 群			肥 満 度			
				L	M	S
1	75歳以上	度数	0	4	5	4
		頻度 %	0	10	13	10
	74歳以下	度数	1	5	4	1
		頻度 %	3	13	10	3
	69歳以下	度数	0	2	3	1
		頻度 %	0	5	8	3
	64歳以下	度数	0	4	6	0
		頻度 %	0	10	15	0
	合 計	度数	1	15	18	6
		頻度 %	3	38	45	15

しかし、表9に示すように、サイズに不満を持つ人の45%は普通サイズ M の人であった。肥ったり・痩せたりではないBMI 普通のグループでも、サイズに不満を持っていることが分かる。身長が低いことや体形変化も不満を持つ一因ではないかと考える。JIS では身長別、体型別に規格化された合計100以上のサイズ設定がなされている。¹¹⁾ しかし、現実に市販されている既製服サイズは数種類で、服に無理やり合わせている人がいると推察する。また、この成人女子用サイズは、20歳代の若年者も高齢者も同じ区分となっているので、高齢者対象の体形別サイズ作成の必要があると考える。

(3) 着心地

1) 動きやすさ、脱ぎ着のしやすさ

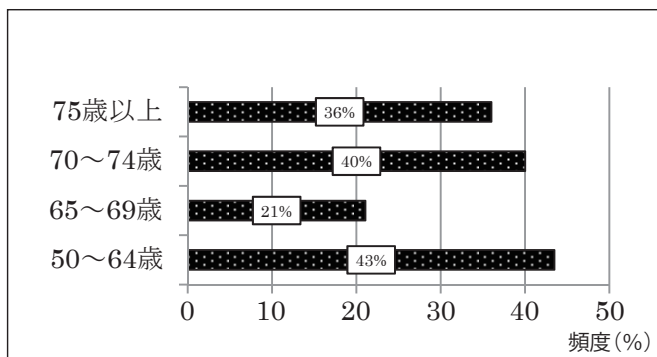


図9 動きやすさ、脱ぎ着のしやすさに不満を持つ人の割合

図9に示すように、「動きやすさ、脱ぎ着のしやすさに不満」を持つ人は、全体で2割から4割台であったが、外出着を選ぶとき、図10の通り、どの年代でも「動きやすい服」、「重くない服」を選ぶ人が多かった。高齢者の活動性に配慮した衣服が必要であることが分かった。

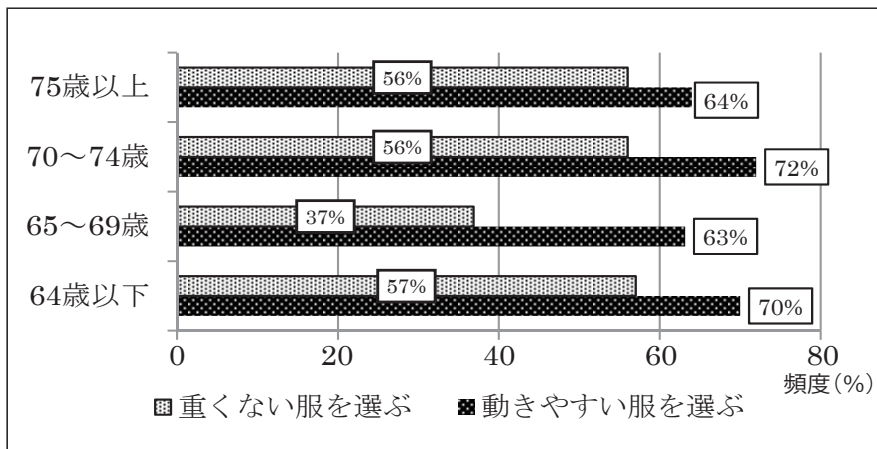


図 10 重くない服、動きやすい服を選ぶ割合

表 10 動きやすさ、脱ぎ着のしやすさに不満を持つ人のコメント

64 歳以下・・・「だからといってウエストゴムでは・・・」「素敵なブラウスを見つけてもポケットがなくて不便」

65 ～ 69 歳・・・「高齢者に脱ぎ着しやすいものがない」

70 ～ 74 歳・・・「あまりしぼってないものがない」、「前（ボタン、フックなど）かけにくい」「丸首はあきが小さい時がある」

75 歳以上・・・「自分に合いそうなデザインで前あきとか脱ぎ着のしやすいものがない」、「前あきがよい」「ボタンが小さいのはいや、伸縮素材がよい」

また、表10のコメントに示す通り、動きが制限されるもの（衣服圧・ゆるみ）や着脱動作が容易でないものに対しても、不満を持っていることがわかる。高齢者の着脱動作は、衣服の「あき」をどのように処理するかということも重要なポイントであり、ボタンやファスナーの位置やつけ方を高齢者の扱いやすいものにする必要がある。例えば、腕を後ろに回す動作での後ろファスナー・ボタン・フックは、着脱しにくい「あき」となる。⁴⁾ また、「ポケットがなくて不便」と記述してあるものもあり、女性は身の回り品が多く、いちいちハンドバッグを開くのは気が引けるときがあり面倒でもあるので、高齢女性にとってポケットがある方が、望ましいと考える。

2) 肌触り、素材

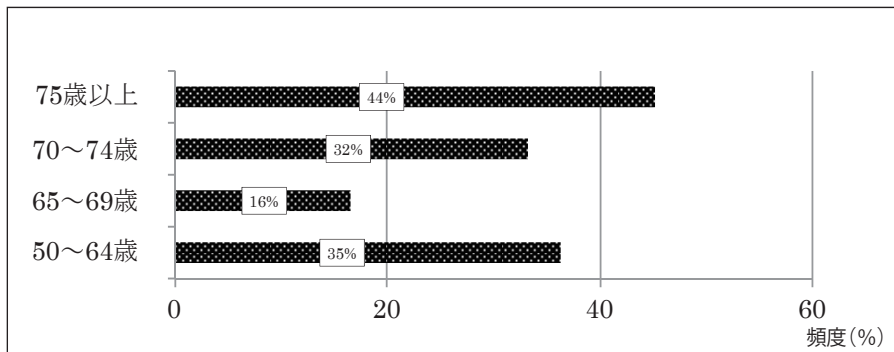


図 11 素材に不満を持つ人の割合

表 12 素材に不満を持つ人のコメント

64 歳以下・・・「暖かさ、涼しさ」、「綿 100% が少ない」

70 ～ 74 歳・・・「綿を好む」、「ナイロン系はチクチクする。」、「肌ざわりの良さ」、「風合い」、「暖かさ」、「しわのこないもの」

75 歳以上・・・「綿の素材」、「暖かく、涼しく」

図11に示すように、65歳以上では、年齢とともに素材に対する不満は増加しているが、75歳以上の人の素材に対する不満は4割を超えているが、80歳代の人の不満はこの素材に対するものが一番多く、肌ざわりの心地よさや体外気温との温度調節を一番望む世代と言えるかもしれない。機能性の高い衣服の提供が、満足感を高める年代ではないかと考える。

また、特に「不満はない」とした人が全体の3%であったが、そのコメントは「定年退職して家にいるので新しい物が必要ではない」、「自分で作れる、既製品は縫製が満足できない」と記述しており、また、自身に経済力があり対処できていると思われる記述もあった。

(4) 規範意識と着装心理

上野は、着装行動は、日常生活を送る上で最も基本的な行動であり、高齢者にとって衣服や外見に関心を持つことは、健康的な自己概念を維持するうえで重要な役割を担っていると述べている。¹²⁾「何を着るのか」ということは、高齢期の人にとって、どんな日常生活を送るのか、どのような人間関係を持ち、どのように社会に参加し、どのように自分を表すのかという、まさに、「どんな人生を送るのか」ということと深くかかわることになると考える。

外出着を選ぶときどんなことに気を付けるかの問いに、図12の通り、「場にふさわしく感じよくみえるように」と心がける人はどの年代も多かった。また、図13の通り、70歳以上で7割を超える人が、「暗くみえないように若々しく」と心がけていた。他者からみられる自分、社会の中の自分を、身に着ける衣服との関連で捉えていると考える。どちらも、他者から見られる自分を

意識していることがわかる。65歳以上の高齢女性では、年齢が上がるにつれ上昇する傾向にあることがわかる。

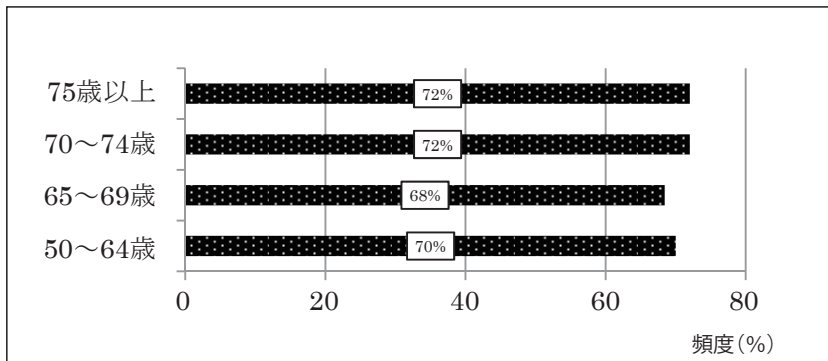


図 12 場にふさわしく感じよくと心がける人の割合

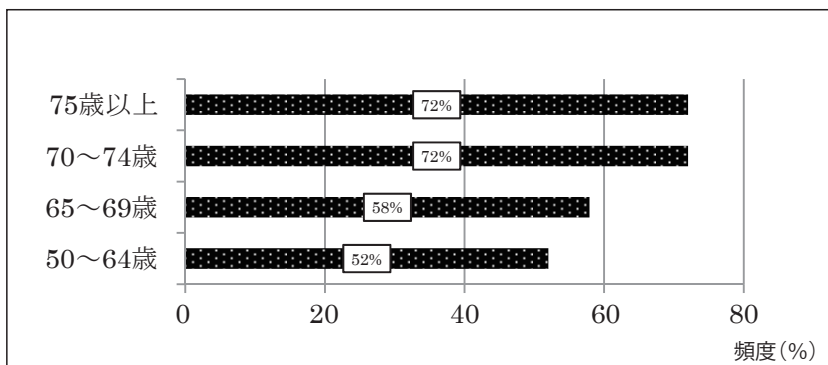


図 13 暗く見えないように若々しくと心がける人の割合

図14で示すように、服装で「季節感が表われるように」と心がける人の割合は、年齢の上昇とともに高くなり、70歳以上で7割を超えており、衣服で季節感を楽しみ表現したいという気持ちを持っていることがわかる。75歳以上では、「場にふさわしく感じよく」、「若々しく」、「季節感が表われるように」という服装を心がける人が、ともに72%という高い割合を示していた。

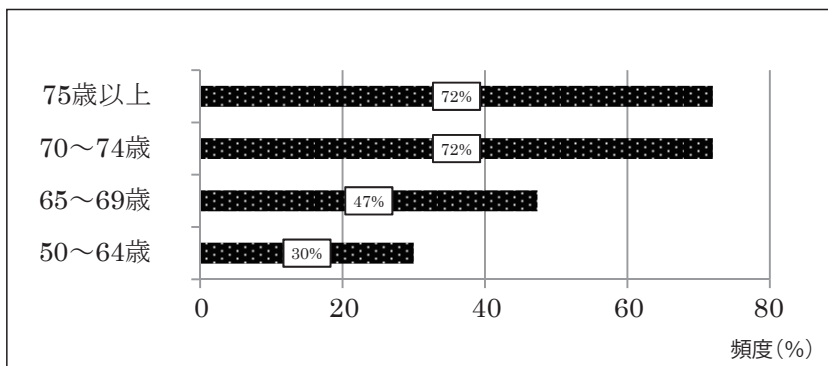


図 14 季節感が表れるように心がける人の割合

図15の通り、「流行を意識する」と回答した人はどの年代も4～5割程度で、程度の差はあるが外出着を選ぶとき流行を意識すると答えている。年齢が上がると上昇する傾向にあるが、その年代なりの流行感があるのではないかと推察する。若年者でやや低めであるのは、「自分らしさ」を大切にしたいと思う人が多くなるためではないかと考える。

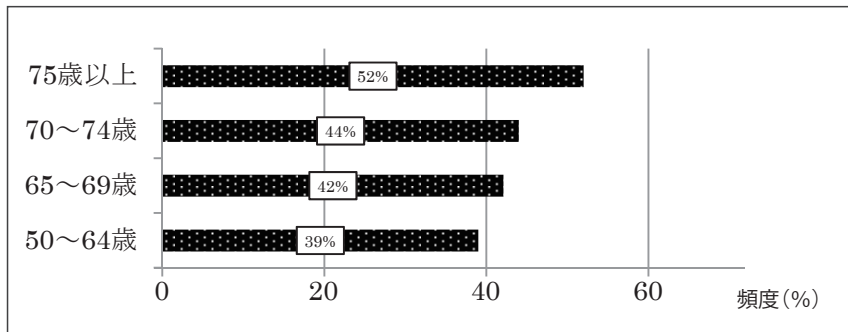


図15 流行を意識すると答えた人の割合

図16で示すように、年齢にふさわしい服装を一番に心がける人は75歳以上では60%と半数以上が外出着を選ぶときに気を付けていると回答している。一方、64歳以下では13%と低く、年齢が上がるとともに上昇している。外出着を選ぶことは、社会の中での自分をどう表現するかを決定することでもある。期待される自分・他者の目に映る自分を、ふさわしいという言葉で表現することが、75歳以上の高齢女性の心情にフィットするのではないかと考える。その一方で、64歳以下が13%と低い数値なのは、アンチエイジングという考え方が浸透し、年齢にふさわしくではなく、実年齢よりも若くありたいという思いが表われているのではないかと考える。

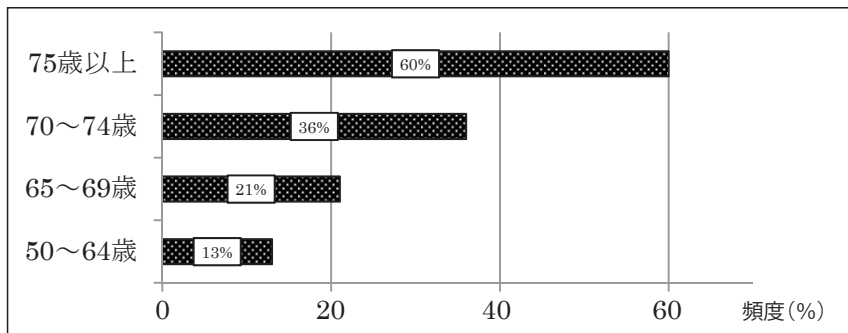


図16 年齢にふさわしい服を選ぶと答えた人の割合

図17で示すように、「服装は無難で目立たないように」と心がける人は、全体として低い割合だった。75歳以上で24%と若干割合が高く、目立たずにその場になじむ服装を心掛けるという気持ちの表れともいえる。無難であることの居心地の良さや安心感があるのではないかと考える。

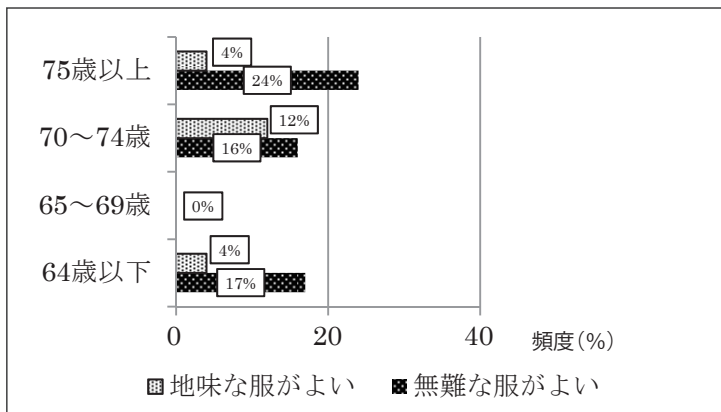


図 17 地味な服、無難な服を選ぶと回答した人の割合

また、図17の、「地味な服がよい」と答えた人は全体の6%であった。この「地味な服がよい」というのは好みの問題で、控えめな衣服表現が好きな人かもしれないと考える。その他のコメントとして、「自分に合うかどうかが一番」、「自分の個性を表現できるようにする」、「年齢のことも考えるが自分に似合うものが一番と考える」と、衣服で自己を表現したいと考える人の記述もあった。

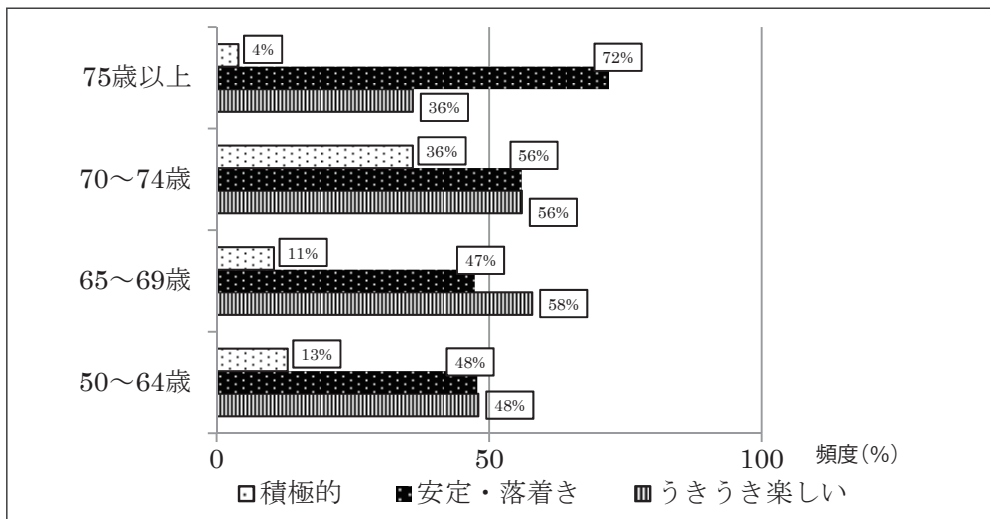


図 18 お気に入りのおしゃれな被服を着て外出する時の気持ち

図18に示すように、お気に入りのおしゃれな服を着て外出する時の気持ちについては、75歳以上で、「安定・落ち着き」が72%と、「うきうきした気持ち」の2倍の割合になっている。この年代の人は、人より目立つ服装より、「感じよく、若々しく、季節感を大事に、年齢にふさわしく」と考える年代でもあり、T.P.O.をわきまえた服装で、他者との関係を大事にしていると推定され

ることから「安定して落ち着いた気持ち」を感じる人が多いのではないかと考える。また、70～74歳で、「積極的な気持ち」になる人が36%と他の年代に比べ多くなっていた。「その他」と答えた人も「元気になる」と記述していた。お気に入りの服でおしゃれした自分を鏡に映すと、普段よりもずっと積極的で前向きな気持ちになる自分を自覚する年代ではないのだろうかと推察する。

(5) 購買意欲

外出の機会が多いかの問いに対し、64歳以下で9割以上が「多い」と回答し、年齢が高くなると外出の機会は減っていくものの、70歳以上でも6割以上の人が「外出の機会が多い」と答えていた。外出するとき着る服がないと思うことがあるかについては、75歳以上で4割、その他の年代で5～6割がはいと回答した。

そこで、図19に示すように、外出の機会が多い64歳以下のグループと、図20に示す75歳以上のグループについて、既製服を自分サイズに作るシステムがあれば注文しますかの問いについて比較した。

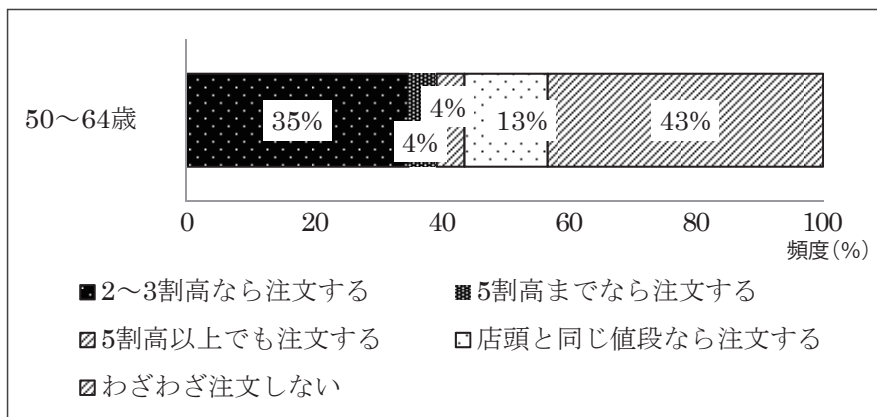


図 19 64歳以下の人の既製服サイズ直しにかかる金額の許容限度

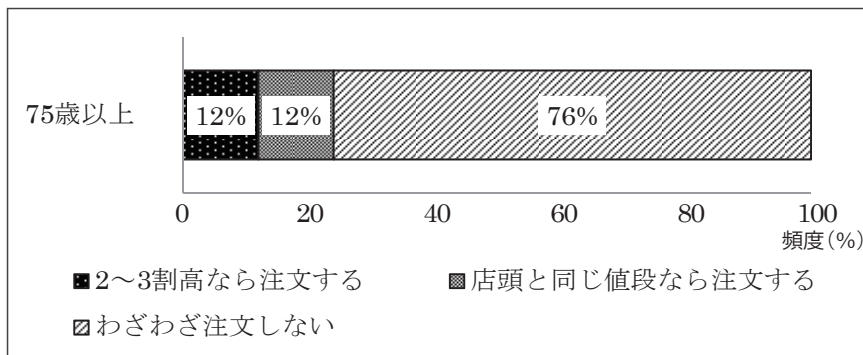


図 20 75歳以上の人の既製服サイズ直しにかかる金額の許容限度

その結果を見てみると、75歳以上ではわざわざ注文しないという人が76%で多いのに対し、半数近くが職業を持つ64歳以下のグループでは、2〜3割高までなら注文するという人が多く、「店頭と同じ値段ならする・それ以上でもする」など合わせると、注文するとした人が半数以上であった。若い層の購買意欲があることがわかった。75歳以上では、サイズや素材に対する不満は高いものの、積極的な購入には結びつかない人の方が多いこともわかった。経済的理由もあると思われるが、第二次世界大戦前後の、物が無い時代の記憶を強く持つ世代でもあり、節約の精神やもったいなさをいちばん感じていると思われる世代でもあり、すぐにこのシステムを利用するかどうかは、疑問であるが、このシステムが定着すると、試してみたいと思う人も多いのではないかと考える。

4. 総括

高齢女性は、おしゃれに関心があるものの、衣服や衣生活の現状に何かしら不満を持っている人が多く、身長の高さや体形変化により多様な不都合を感じていた。年齢の高い人ほど、規範意識が高く、機能性のある衣服を求めており、購買意欲は低い傾向が見られた。また、手持ちの服が「もったいない」、「リフォームしたい」と思う傾向が高くなることがわかった。高齢者のサイズの不都合を改善し、嗜好に合うデザイン・色・柄や素材を考慮した製品を、リーズナブルな価格で提供できるようになれば、衣服に対する満足度は上がると考える。

そこで、高齢女性が衣生活を楽しみ、安定した気持ちで社会生活を送るために、客層とそのニーズに適応した販売店の拡充や適正価格で手持ちの服を再び着用できるようなリフォームを受注する専門家を配置した店等の増加が望まれる。また、外出時の同伴者や衣服購入時の相談者、自分でリフォームをする時のアシスタントやリフォームの専門家の支援を高齢者が気軽に得ることのできる地域作りが望まれる。

5. 今後の課題

高齢期の体形を調べ、類似体形別衣服作成を試み、安心感やうきうき感を与える衣服の提案をしたいと考える。また、本調査結果を踏まえて、既製服を自分サイズに作るシステムについても提案したいと考えている。

自由記述の欄に、組み合わせや似合うものを提案してくれる「コーディネイター」を望む声はかなり多かった。加えて、「遠慮のない助言をしてくれる女の子とか友人と一緒になら、買い物も楽しい」というものもあった。高齢者の衣服に対する満足感が上がるには、人との触れ合いや会話が加わることが大切で、衣服を選ぶ楽しみを誰かとともにできたら精神的にも満たされ、「モノ」に対する喜びが増すことになる。それがたとえ親しい人でなくても、ホスピタリティのある専門的なアドバイザーであれば、その効果は十分期待できると考えられることから、今後、衣服のアドバイザーとして、「福祉と被服」の知識を兼ね備えた専門職の配置ができるようになれば

いいのではないかと考える。高齢女性の身体的変化を知り、気持ちを大切にすることができるホスピタリティのある衣服アドバイザーやアシスタントがいれば、高齢者の衣生活の改善・充実が図れるのではないかとと思われるので、それが実現可能かどうかについて社会システムについても検討する予定である。

参考文献

- 1) 総務省統計局 HP. 人口の推移と将来人口、日本人の平均寿命 平成21年度
- 2) 鷺田清一、「ひとはなぜ服を着るのか」文化装置としてのファッション、NHK 人間大学
1997. 10月～12月期 日本放送出版協会 (1997)
- 3) 岩波君代、「衣服の機能とデザイン」、特集 見せてうれしい福祉用具—使いやすさとデザインの統合、—日本義肢装具学会誌 vol17、No3、(2001)
- 4) 田村照子編著、小柴朋子／平田耕造共著、「衣環境の科学」、高齢者の体形・姿勢の変化 p119、建帛社、2004
- 5) 泉加代子、「高齢者の着装感情や服装への関心度と日常生活・健康状態との関係」、繊維機械学会誌 (繊維工学)
Vol. 55, No. 4 (2002) p.141-148
- 6) 加藤陽一、岩崎謙次、『ファッション製品の企画と感性』、(社) 日本品質管理学会誌 品質 Vol.29 No.4、(1999)
- 7) 楠幹江、「高齢者の衣生活と自立支援」、『日本人の生活』、編集 (社) 日本家政学会、建帛社
(1998年) p.163-167
- 8) 小林茂雄、「身づくろいの生理・心理学」、『日本人の生活』、編集 (社) 日本家政学会、建帛社、(1998年)、
p.168-172
- 9) 総務省統計局 HP、「単身世帯、年齢階級別 1 世帯当たり 1 か月間の支出 (平成 2 1 年)」、
- 10) 厚生労働省 HP、BMI 計算式
- 11) 藤原康晴、「衣料サイズと表示」、「衣生活の科学」、放送大学教育振興会、(2006年初版、2009年第3刷) p.79-82
- 12) 上野裕子、「高齢者の生活意識と被服行動」、高木修、神山進、『被服行動の社会心理学』、北大路 (1999年初版、
2008年初版第 5 刷) 書房 p.101-112